

1996

公共建築の外部空間デザインマニュアル



大阪市

An aerial photograph of a city, likely Tokyo, showing a dense urban landscape with numerous skyscrapers and buildings. A wide river flows through the city, and a large highway interchange with multiple overpasses is visible. The city extends to the horizon under a clear blue sky.

公共建築の外部空間デザインマニュアル

Design

INDEX

はじめに～公共施設のアメニティアップの意義

1. 外部空間設計の基本的な考え方 1

2. 設計の進め方 2

3. 外部の方針とデザインメニュー 4

I. オープンスペースの確保

A. 広場を確保する 5

B. 人にやさしい動線を確保する 7

C. 緑量を確保する 8

II. 境界部のデザイン

D. 歩行者空間を確保する 9

E. 出入口を演出する 10

F. 境界部に植栽をほどこす 11

G. 高低差の処理を工夫する 13

H. 必要なフェンス等はデザインを工夫する 14

III. 附帯施設の処理

I. 駐車場をデザインする 16

J. 駐輪場をデザインする 17

K. 設備関連施設をデザインする 18

IV. さまざまなデザイン要素

L. 植栽 19

M. 舗装 22

N. 屋外造形物 23

O. ストリートファニチュア 24

P. 水 26

Q. 花 27

はじめに

公共施設のアメニティアップの意義

公共施設（市設建築物）は市内全域に広く分布し、また立地的にも地域の重要な場所に位置するものが数多くあり、その存在が地域のイメージを大きく左右するといえる。

大阪市では、「アメニティアップ計画」として、公共施設を地域のアメニティ資源と位置づけ、そのアメニティアップを図ることにより、地域のまちなみ向上をリードしながら公共施設全体のイメージの向上を図るとともに、民間施設への啓発・誘導力の強化に資することを考えることとした。

アメニティアップ計画では、公共施設が担うべき役割を次のように考える。

- ①景観向上の先導役
- ②調和のとれたまちなみづくりを誘導
- ③道路などとの一体化・連続化による
快適な歩行者空間の創造
- ④緑の創出・充実

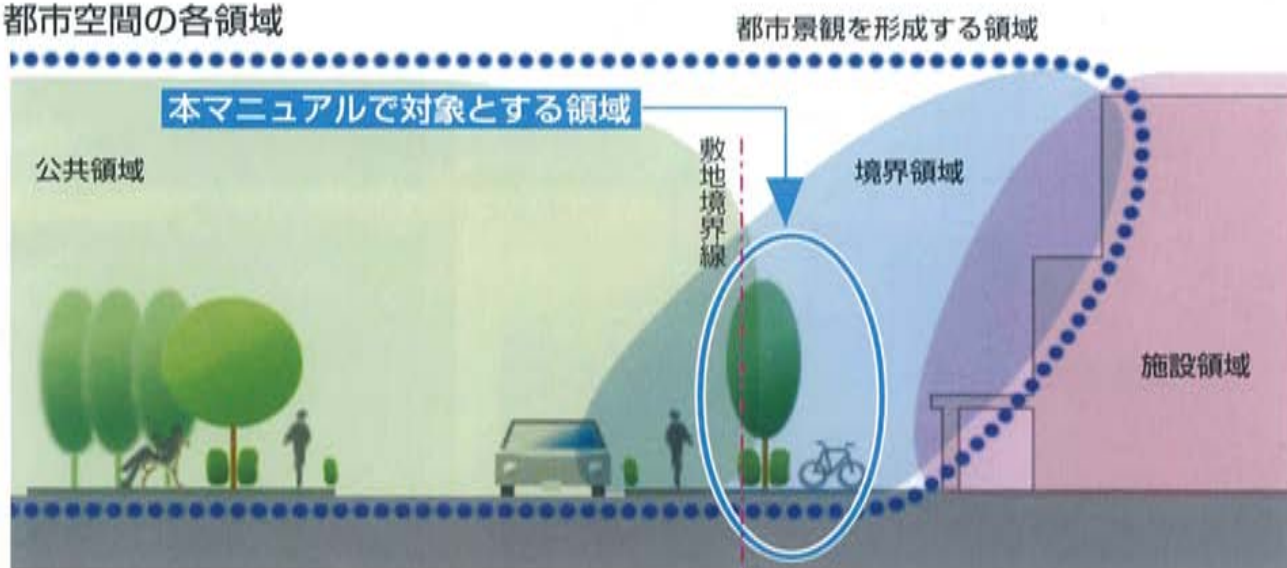
本マニュアルは、アメニティアップ計画具体化の第一着手として、市設建築物の外部空間、特に敷地境界近傍の境界領域を対象とした空間整備の手法についてまとめたものである。

今後、市設建築物の外部空間整備にあたっては、本マニュアルを基本に計画を行うものとする。



公共施設の境界領域の改善により、地域に親しまれ地域のイメージ向上に貢献できる空間設備も可能である。

都市空間の各領域



外部空間設計の基本コンセプト

公共建築は、道路や公園等とともに都市空間を構成する主要な施設であり、地域の活性化や良好な地域景観の創出等、まちの魅力を高める上でその役割は非常に重要である。

さらに、公共建築は、市民生活の基盤となり、また市民の豊かな文化生活を確保するための市民のための施設であることを念頭におき、市民に開かれ、さらに地域に開かれた施設とすることが大切である。

そのため、本市の公共建築物の外部空間は、原則として次の基本コンセプトに基づき、各施設担当局と協議し整備する。

基本コンセプト

1. 建物入口部分や敷地コーナー部分等、敷地内にはできるだけ市民が自由に通行でき、休み、憩えるオープンな空間を設ける。
2. 道路と接する境界部分に歩道が設置されていない場合は、原則として敷地内に歩道等市民が安全に歩行できる空間を設ける。
3. 公共空間（道路、公園等）と接続する敷地境界は原則として公共空間とオープンに接することとし、塀等は設置しない。
ただし、やむを得ず塀等を設置する場合には、植栽等を設けて境界からできるだけ控えた位置に設置する、または透過性のあるものとする。
4. みどり豊かな外部空間とする。
5. 外部空間の設計にあたっては、周辺環境との調和に努め、賑わいのある場となるよう質の高い設計とし、使用する材料も耐久性のある品質、デザインの優れたものとする。



① 周辺環境の特性を読みとり、設計に反映させる。

- 周辺地域の土地利用・景観^{*1}、建物用途^{*2}、景観の状況を充分に読みとり、地域と調和したデザインをほどこす。
- 現状において周辺環境がよくない場所では、当該敷地のデザインによって環境の質を高めていくような先導的役割が要請される。

② 周囲のまちなみや周辺敷地の外部空間との関係を考慮する。

- 建築物とその外部空間がまちなみに埋め込まれることによって、新たなまちなみが形成される。周囲のまちなみの状況に応じて、どのようなデザインがふさわしいかを検討する。
- 隣接敷地の外部空間や前面道路、さらには、道向かいの敷地の外部空間の連続性を考慮し、一体的な配置やデザインをほどこす。
- 周辺との一体化のためには、とりわけ敷地境界部のデザインが重要である。周辺敷地や前面道路との境界はできるだけオープンにし、また、デザイン要素も共通のものを使用することによって一体感をだすことができる。

③ 建築物の配置と一体的にデザインする。

- 建築物の配置によって外部空間の平面構成が決まり、その意味では、建築物の配置計画は外部空間デザインの第一歩である。
- 建築物の機能によって、外部空間の意味合いも決まってくる。玄関周りのエントランス空間、資材搬入等のサービスヤードなどが、建築物の設計によって定まる。こうした建築物の機能と外部空間デザインを同時に検討することによって、整合性のとれたデザインが可能となる。
- 建築物への誘導、また、周辺道路の通行状況によって、自動車や歩行者の動線が決まる。外部空間が快適に利用できるよう、動線計画も充分に考慮する。

*1 市街地景

土地利用、雰囲気、景観等については、大阪市景観形成基本計画において市街地景として次のようにまとめられている。

低層住宅地景、中高層住宅地景、商業地景、業務地景、業務地裏通り景、住工混在地景、工業地景、在来港湾地景

*2 建物用途

公共施設の用途は概ね、以下に大別される。

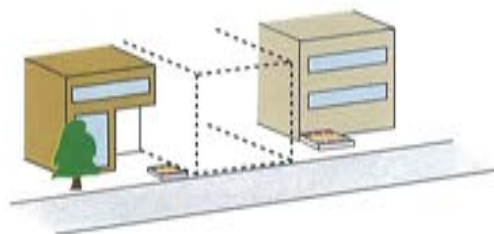
市民利用

学校等

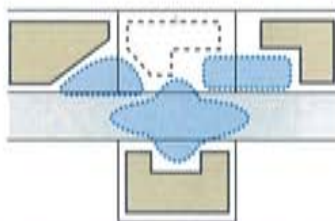
業務施設等

比較的特定された利用者に限られたものから、不特定の人々に利用されるものまで利用者への配慮が必要である。

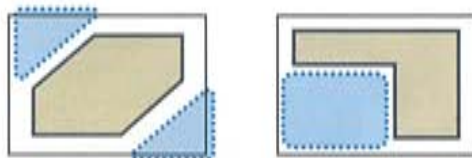
周囲のまちなみとの関係を考慮する



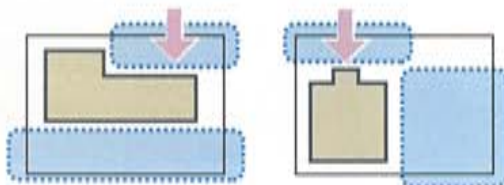
周辺の外部空間との関係を考慮する



建築物の配置や形態が外部空間の形態を決める



建築物の機能が外部空間の意味合いを決める



④外部空間全体をデザインする

- 植栽やサイン、ストリートファニチュア等外部空間はさまざまな要素によって構成される。これらが個々ばらばらにデザインされることなく、空間全体をデザインすることを常にこころがける。
- 空間にたくさんの要素を持ち込むと、デザインに混乱をきたしやすく、また、窮屈な感じとなりやすい。空間の広さにゆとりがない場合には、特に注意が必要である。
- サイン類の統合化、ベンチとしても利用可能な植樹、電柱と照明の共架等、機能の複合化によって要素を整理することも検討する。
- 供用開始後に新たにサイン等が設置されることもでてくるが、そうした場合には設計時の全体デザインを十分に考慮する。本来はあとから付加されるものがないように、機能やデザインについて設計段階から十分に検討しておくことが大切である。

⑤外部空間にもたせる機能を考察する

- 外部空間の機能を十分に考察し、何のために外部空間をデザインするのか、を明確にする。周辺環境や当該敷地、建築用途等の特性を考慮し、その場にふさわしいデザインを検討する。
- 休息スペース等人々の活動を誘発するデザインを行う場合には、活動特性を十分に検討し、使い勝手がよく快適な空間をデザインする。

⑥都市景観とデザイン要素

- オープンスペースのデザイン要素は、建物やその場所の雰囲気等、都市景観に配慮したものでなくてはならない。
- デザイン要素は、後から付加されるものではなく、建築計画の当初から並行して充分検討していくべき性質のものである。



A. 広場を確保する

- A-1 境界を設けない
- A-2 透過性の高い境界処理
- A-3 アクセントを持たせる
- A-4 デザイン要素の平行配置
- A-5 休憩コーナーを設ける
- A-6 庭園を設ける
- A-7 遊び場を設ける

B. 人にやさしい動線を確保する

- B-1 段差をなくす
- B-2 階段とスロープの一体化
- B-3 人の動線の確保

C. 緑量を確保する

- C-1 シンボリックな植栽
- C-2 透過性の高い植栽
- C-3 緑量感のある植栽

D. 歩行者空間を確保する

- D-1 人の通行レーンの確保
- D-2 せまい歩道にゆとりを
- D-3 歩道状公開空地との連続

E. 出入口を演出する

- E-1 門扉のセットバック
- E-2 筋違いの技法
- E-3 特色のあるエントランス

F. 境界部に植栽をほどこす

- F-1 透過性の高い処理(動線+視線)
- F-2 透過性の高い処理(視線のみ)
- F-3 オープンに見せる
- F-4 生垣とかん木・草花
- F-5 生垣と高木
- F-6 緑量と遮蔽効果
- F-7 街路樹等との調和

G. 高低差の処理を工夫する

- G-1 土留と緩斜面による場合
- G-2 多段型植栽スペースの確保
- G-3 擁壁による場合

H. 必要なフェンス等はデザインを工夫する

- H-1 デザインされたフェンス
- H-2 フェンスを意識させない植栽
- H-3 セットバックによる植栽
- H-4 塀とフェンスの組み合わせ
- H-5 高尺フェンスの修景(1)
- H-6 高尺フェンスの修景(2)

I. 駐車場をデザインする

- I-1 植栽による遮蔽
- I-2 空間に潤いを
- I-3 広場としてのデザイン

J. 駐輪場をデザインする

- J-1 建物との一体化
- J-2 上屋のデザイン
- J-3 植栽による囲み

K. 設備関連施設をデザインする

- K-1 モニュメント化
- K-2 デザイン化
- K-3 植栽との調和

L. 植栽

- L-1 スペースと植栽(高木あるいは植込地)
- L-2 スペースと植栽(中木)
- L-3 スペースと植栽(かん木)
- L-4 スペースと植栽(地被)
- L-5 スペースと植栽(生垣)
- L-6 スペースと植栽(つる性植物等)
- L-7 整形樹形
- L-8 人工地盤上の植栽
- L-9 道路空間との親和性
- L-10 生育環境と樹木特性

M. 舗装

- M-1 建物のデザインとの調和
- M-2 舗装の連続性
- M-3 楽しい舗装

N. 屋外造形物

- N-1 シンボル化
- N-2 ファニチュア化
- N-3 楽しい造形物

O. ストリートファニチュア

- O-1 複合化
- O-2 デザインの調和と個性化
- O-3 サイン
- O-4 広報板の統合
- O-5 照明
- O-6 車止
- O-7 ベンチ

P. 水

- P-1 動きのある水
- P-2 モニュメント化
- P-3 楽しい水

Q. 花

- Q-1 花壇
- Q-2 プランター
- Q-3 ハンギング・窓辺

平面構成図



A

I.オープンスペースの確保(1)

広場を確保する

基本的な考え方

① オープンスペースの構成

建築密度の高い大阪市域では、建築周りのオープンスペース、特にフロント部のスペースのもつ意味は大きい。この貴重なオープンスペースの構成を複雑にしないことが必要である。

② ゆとりのあるオープンスペース

オープンスペースがまちにゆとりを与える空間となるようにする。

③ 動線の明確化

歩行者の出入口と車両の出入口は明確に分離することが必要である。

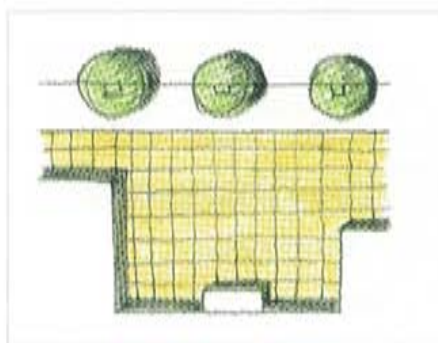
④ ポケットパークの設置

市民利用施設のうち、図書館、博物館、老人施設、区民ホール、児童館等ではオープンスペースの一部にポケットパークを積極的に設置する。

デザインメニュー

A-1 境界を設けない

境界部に全く何も設けず、自由に出入りできるエントランス広場を演出する。



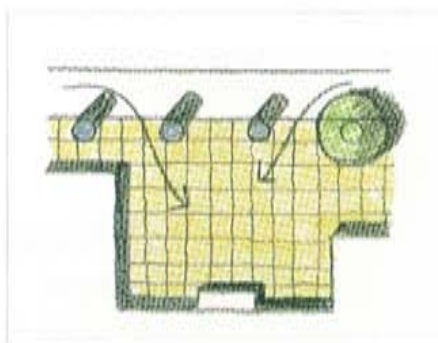
コミュニティプラザ平野



淀川区

A-2 透過性の高い境界処理

境界部に高木やストリートファニチュアを広い間隔で置き、人の出入りを制限せず広場をすっきりとさせる。



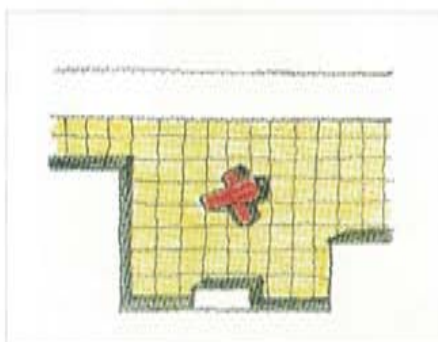
中央区役所



北区

A-3 アクセントを持たせる

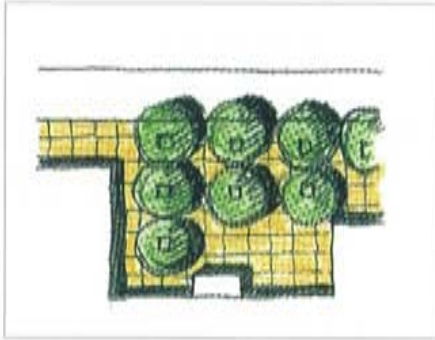
中央部に核となるデザイン要素（彫刻・大木等）を設けることでシンボリックな広場を演出する。



OBP

A-4デザイン要素の平行配置

透過性の高いデザイン要素(高木、柱、照明柱等)を規則的に複数列配置することで整然としたイメージの広場を演出する。



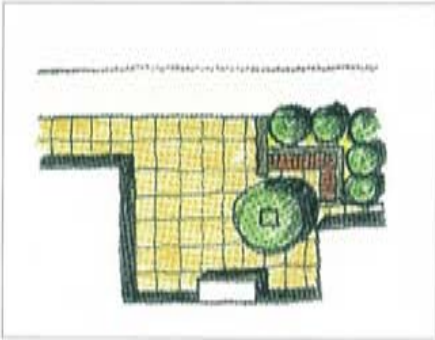
南港



OBP

A-5休憩コーナーを設ける

セットバックして生じた空間を休憩スペースとして活用する。



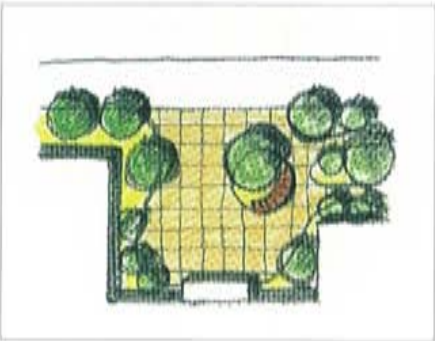
中央図書館



城東区

A-6庭園を設ける

利用者のための緑陰等を提供しつつ、特色ある市民の憩いの場を提供する。



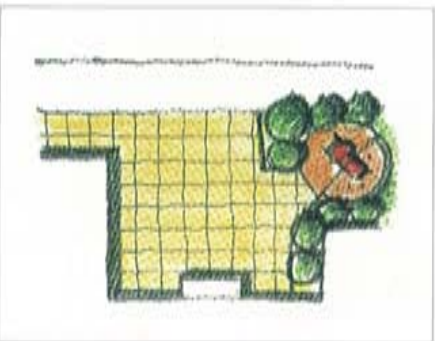
ストックホルム



ニューヨーク

A-7遊び場を設ける

コーナー部等を利用して、幼児の遊び場を建物のデザインに調和させて設ける。



クレオ大阪南

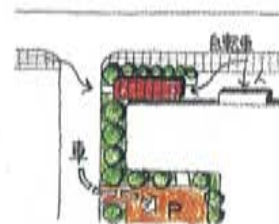
B

I. オープンスペースの確保(2)

人にやさしい動線を確保する

基本的な考え方

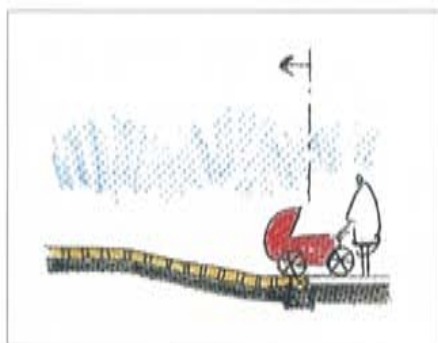
- ①人の動線の優先
いかなる場合も動線は人が優先するものとする。
- ②段差をなくす
敷地境界および建物の出入口等の段差をなくすよう配慮する。
- ③障害者優先
原則として障害者に対する動線を他に優先して設置する。
- ④人と車の動線の分離
車の動線と人の動線は分離し、出入口も分離することが望ましい。



デザインメニュー

B-1 段差をなくす

境界部や建物との間の段差をなくして、誰もがスムーズに近寄れることを原則とする。



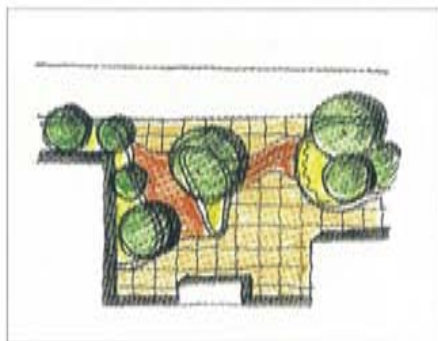
東淀川屋内プール



東成区役所

B-2 階段とスロープの一体化

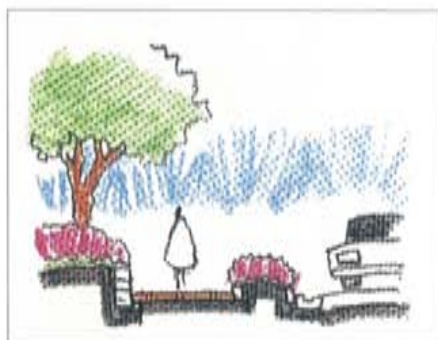
できるだけスムーズに階段とスロープの一体化をはかる。



中央区

B-3 人の動線の確保

人と車を完全に分離することで、人を優先した安全な歩行者動線を確保する。



総合医療センター

C

I.オープンスペースの確保(3)

緑量を確保する

基本的な考え方

①スペースと緑量

スペースの大きさ、形状に合わせて、できる限り大きな緑量を確保する。

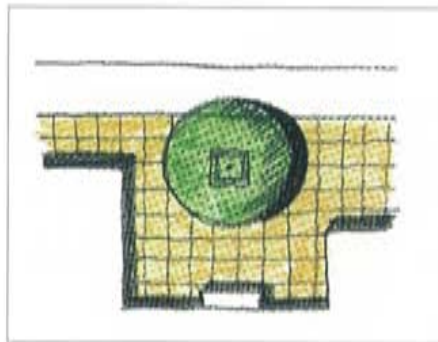
②コーナー部の緑

建物をやさしく見せるために、建物のコーナー部には大きな植栽が望ましい。

デザインメニュー

C-1シンボリックな植栽

シンボル性を意識して、植付場所、樹形、樹種を考える。



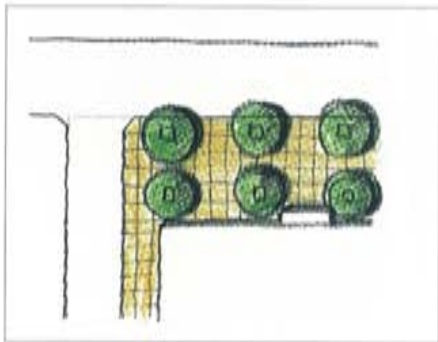
市役所



中央図書館

C-2透過性の高い植栽

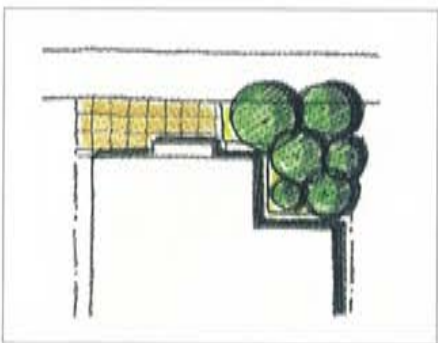
人の動線の妨げにならないように適度な間隔を開けて植栽する。



北区

C-3緑量感のある植栽

沿道・周辺部に対してアクセントになるような大きな緑量を確保する。



OBP

D

II.境界部のデザイン(1)

歩行者空間を確保する

基本的な考え方

①セットバックによる歩道の確保

歩道がない場合においては原則として、一般道路に対して歩道を提供する。建築後退や、境界部の施設を後退させることにより、公共施設の役割として歩道を積極的に確保することが望ましい。

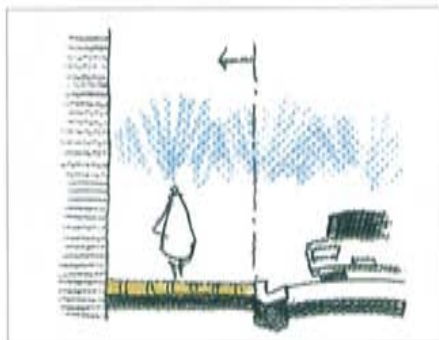
②周辺オープンスペースとの調和

敷地内に確保した歩道部の舗装等のデザインは、建物や連続するスペースとの調和が必要である。

デザインメニュー

D-1人の通行レーンの確保

歩道のない場所において、建物の壁面やフェンス等をセットバックすることで、道路景観にゆとりを与え、かつ、通行レーンとすることで安全で快適な人の動線を確保する。



中央区



北区

D-2せまい歩道にゆとりを

歩道が狭い場合に、通行レーンを提供することで、よりゆとりのある道路空間をつくる。



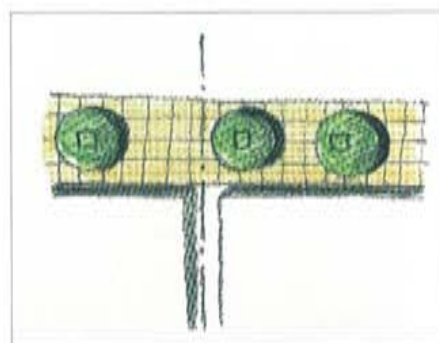
新宿区



中央区

D-3歩道状公開空地との連続

人の通行レーンを確保することは、民間の歩道状公開空地の誘導につながり、連続したオープンスペースの形成に役立つ。



中央区

出入口を演出する

基本的な考え方

①門扉のセットバック

接道部にゆとりを与えるため、門扉はセットバックして設ける。

②筋違いの技法

バックヤードに設けられるサブエントランス等で内部をかくす必要がある場合、遮蔽物を筋違いにすることで、内部を見せない工夫が望ましい。

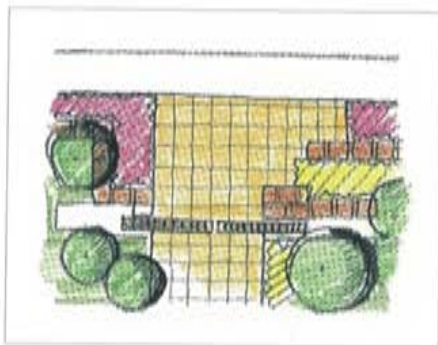
③特色あるエントランス

施設利用目的、あるいはその場所にふさわしい特色のあるエントランス空間を演出することで、空間を個性化することが望ましい。

デザインメニュー

E-1門扉のセットバック

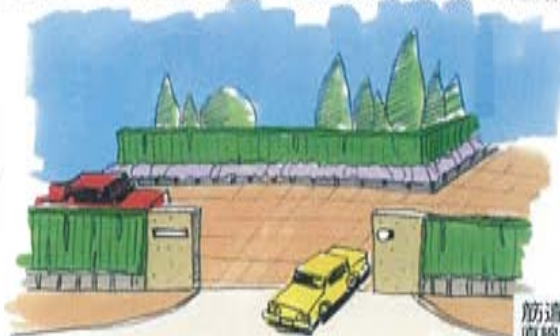
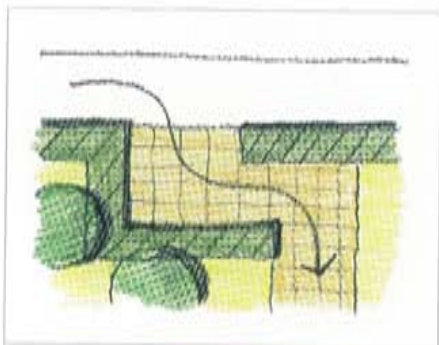
入口らしさの演出と共に景観にゆとりをもたらす効果がある。



東中学校

E-2筋違いの技法*

敷地内（たとえば駐車場、設備関連施設等）を道路から見えなくする。



筋違いの技法*
直線的に処理するのではなく、
シグザグにして変化と奥行き
を演出する手法

E-3特色のあるエントランス

特色のあるエントランス空間を演出し、空間を個性化する。



ふれあい港館

F

Ⅱ.境界部のデザイン(3)

境界部に植栽をほどこす

基本的な考え方

- ①場所性への対応
景観の連続性、建物との関係、スペースの大きさ、前面道路幅員等を総合的に配慮する。
- ②デザイン要素としての植栽
境界部の植栽をまちのデザイン要素として位置づけ、場所にふさわしい植栽手法や樹形を用いることが望ましい。

デザインメニュー

F-1透過性の高い処理 (動線+視線)

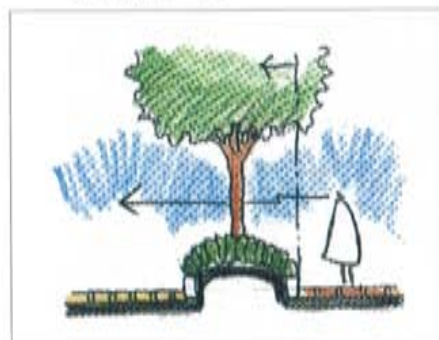


単独植栽樹に高木を植えることで、人の動線を妨げず、かつ視線を遮らない処理をする。



城東区

F-2透過性の高い処理 (視線のみ)

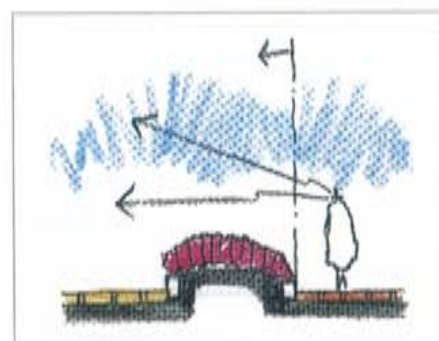


視線を遮る中木を用いず、高木と地被、かん木により透過性を確保しつつ沿道部に潤いと豊かさを与える。



中央区

F-3オープンに見せる



オープンスペースをできるかぎり広く、明るく見せるために、地被、かん木のみで境界部を演出する。



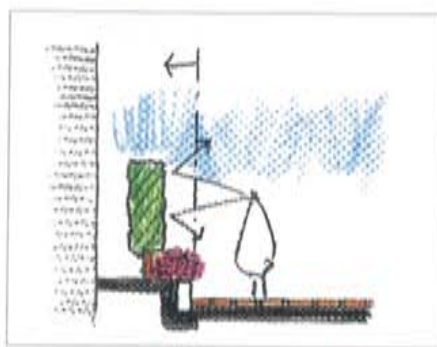
科学館



中之島

F-4生垣とかん木・草花

生垣により、やわらかく遮蔽効果をあげる。
かん木・草花との併用も考えられる。



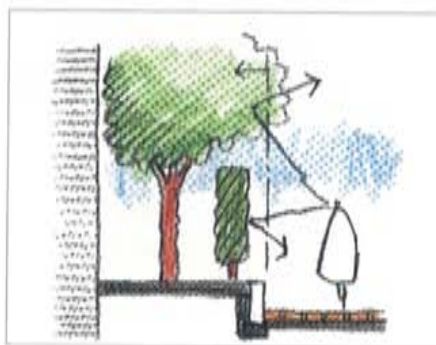
北区



都島区

F-5生垣と高木

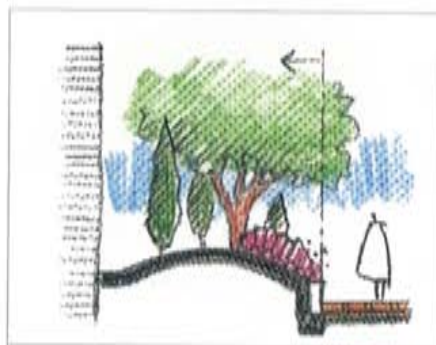
生垣と高木を組み合わせることで、単なる遮蔽だけでなく沿道部に緑量感および潤いと豊かさを与える。



都島区

F-6緑量と遮蔽効果

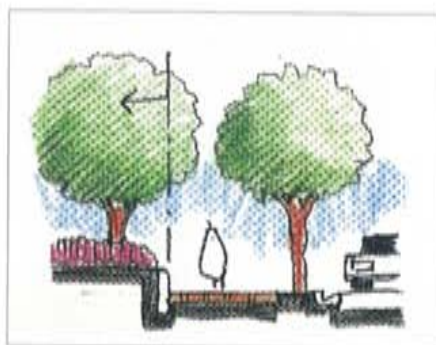
高木、中木、かん木、地被の多層構造の植込地をつくることにより、遮蔽効果をあげつつ緑量感を確保する。



総合医療センター

F-7街路樹等との調和

境界部に高木を植栽する場合は、道路景観に配慮して、街路樹と調和する樹木を植える。



南港

高低差の処理を工夫する

基本的な考え方

①圧迫感の軽減と壁面のデザイン

高低差の処理の方法はいろいろあるが、道路景観を踏まえつつ、圧迫感を与えないように努める。

②植栽による修景

できる限り植物を持ち込んで、構造物のかたさをやわらげると共に、空間に潤いを与える工夫が必要である。

デザインメニュー

G-1土留と緩斜面による場合



土留壁を低くし圧迫感を緩和して、植栽により沿道空間に潤いを与える。



中央区

G-2多段型植栽スペースの確保



高低差を多段型に吸収して、植栽スペースを確保し、変化のある沿道景観を演出する。

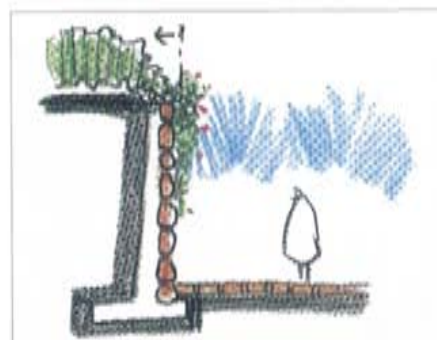


ATC



ふれあい港館

G-3擁壁による場合



高低差を擁壁によって垂直に吸収して、空間をダイナミックにしつつ、壁面デザインやツタ・地被類の植栽等により、固さをやわらげる。



ナイヤガラ



シンガポール

必要なフェンス等はデザインを工夫する

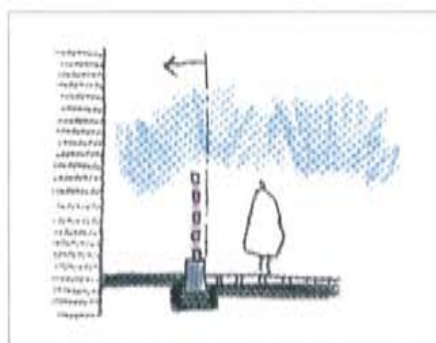
基本的な考え方

- ① 圧迫感をなくす
フェンス等をやむなく設ける場合は、周辺部に圧迫感を与えないよう配慮する。
- ② デザイン性を高める
まちをデザインする要素として、デザイン性のある透過性の高いフェンスの設置に心掛ける。
- ③ 植栽との併設
場所によっては植栽を添えることで、まちに潤いを与える。

デザインメニュー

H-1デザインされたフェンス

デザインされたフェンスを用い、メンテナンスも考慮してその場の雰囲気と調和した素材等を選定する。



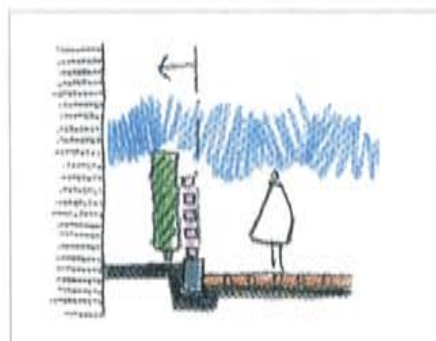
コペンハーゲン



ロンドン

H-2フェンスを意識させない植栽

フェンスの単純さを避けるための生垣や刈込んだ中木をそえる。



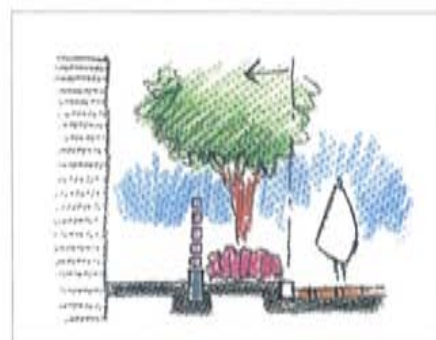
中央区



福岡小学校

H-3セットバックによる植栽

境界部よりセットバックしてフェンス等を設け、沿道部に植栽することで、ゆとりのある街並をつくる。



大宮西小学校



鞆庭球場

H-4塀とフェンスの組合せ

塀のもつ威圧感をやわらげ、かつ、閉鎖的なイメージにならないようにデザインフェンスと組合せる。

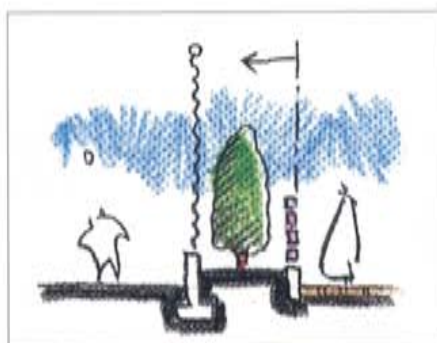


開平小学校



堀川小学校

H-5高尺フェンスの修景(1)



防球ネットはデザイン性に乏しく、圧迫感があるので、境界部よりできるだけセットバックして設け、デザインフェンス、中・高木植栽との併設が望ましい。



北鶴橋小学校

H-6高尺フェンスの修景(2)



防球ネットの接道部前面に中木やかん木の植栽を行うことで圧迫感をやわらげる。この場合は、内側に高木植栽をすることで緑量感を出すことが望ましい。



南港

III. 附帯施設の処理 (1)

駐車場をデザインする

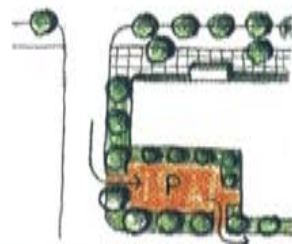
基本的な考え方

①バックヤードに設置

駐車場をオープンスペースに設ける場合はバックヤードに設けることが望ましく、景観を阻害しないように生垣や植え込み等で遮蔽する。

②潤いのある駐車場化

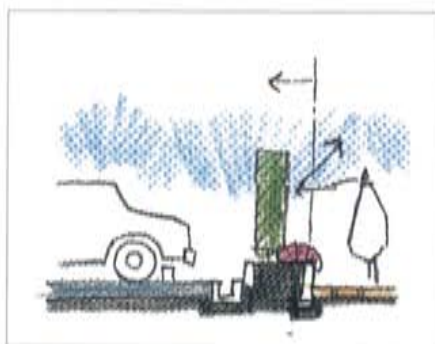
駐車場は貴重なオープンスペースとして、空間に潤いを与えるためにも高木の植栽や広場のデザインを積極的に行うことが望ましい。



デザインメニュー

I-1 植栽による遮蔽

外周部に目隠し機能をもたすことで修景効果を上げる。



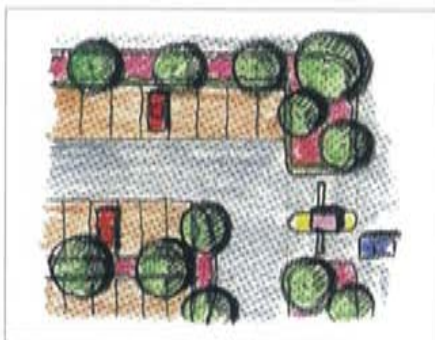
中央区



姫路市

I-2 空間に潤いを

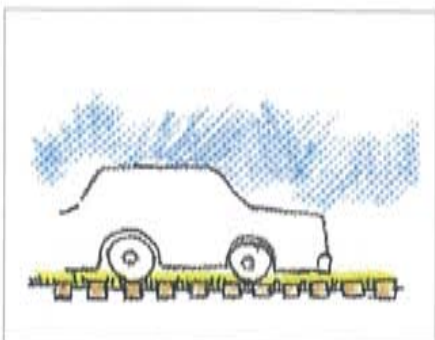
敷地内に高木及びかん木、地被を植栽することで空間に潤いを与える。



ハワイ

I-3 広場としてのデザイン

デザインされた舗装や舗装用緑化ブロックを用いることで空間に潤いを与える。



神戸市

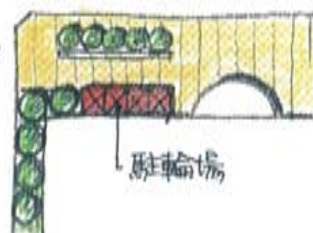


浦安市

駐輪場をデザインする

基本的な考え方

- ① エントランス近くに設置
自転車の散乱を防ぐため、できる限り建物のエントランスに近いところに設置する。
- ② 建物と一体化
建物と一体的に設置することが望ましい。
- ③ 遮蔽
景観や雰囲気を阻害する場合には、生垣や植栽で遮蔽する。
- ④ 上屋のデザイン
屋外に設ける場合は建物のデザインとの調和を図る。



デザインメニュー

J-1 建物との一体化

建物の一部に当初から駐輪場を附帯させることでオープンスペースをすっきりとさせる。



市大病院

J-2 上屋のデザイン

建物のデザインと調和を図り、質の高いものをめざす。



北区役所



阿波座センタービル

J-3 植栽による囲み

目隠し機能をもつ植栽をすることで、雑然とした雰囲気をやわらげる。



総合医療センター



中央区

設備関連施設をデザインする

基本的な考え方

①デザインの工夫

屋外空調設備、換気塔、電気室、ポンプ室等も、それ自体デザイン要素としてデザインを工夫する。

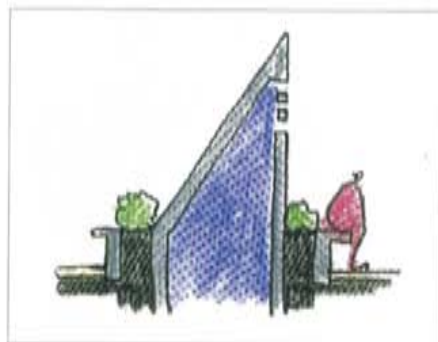
②遮蔽

景観や雰囲気阻害する場合には、生垣や植栽で遮蔽する。

デザインメニュー

K-1モニュメント化

モニュメント化およびサイン化をはかることによりデザイン要素として空間のアクセントとする。



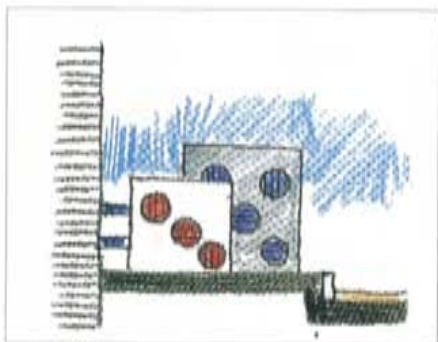
阿倍野区



中央区

K-2デザイン化

施設そのものをその場の雰囲気に合わせてデザインする。



中央区

K-3植栽との調和

目隠し機能をもつ植栽をすることで、雑然とした雰囲気をやわらげる。



中央区

植栽

基本的な考え方

①デザインエレメントとしての植栽

建物周りのオープンスペースの植栽は、あくまでもデザインエレメントとして持ち込むもので、単純にまちに緑量感を与えるためではない。折角確保されたオープンスペースを無作為な植栽によってつまらなくしてしまう場合があり、修景効果に充分配慮する。

②スペースと緑量

植栽は目的とする緑量とスペースの関係が重要で、設計に当たって充分配慮する。

③植栽場所と樹木特性

植栽場所と樹木特性との関係にも充分配慮しておくことが必要であり、生育環境（たとえば日照条件や冠水条件）が劣悪な場合は無理して植栽す

るのではなく、他の修景方法を検討する。

④維持管理の必要性

美しいオープンスペースを保つには、植栽には必ず維持管理が必要で、水やりや整枝、剪定をおこなってはならない。

デザインメニュー

L-1スペースと植栽 (高木あるいは植込地)



周辺の景観に積極的に働きかけるためには高木を用いる。その場合、枝が道路上にのびすぎないように、緑がおさまるスペースが必要で、概ね5m以上の植栽スペースが望まれる。



中央区

L-2スペースと植栽(中木)

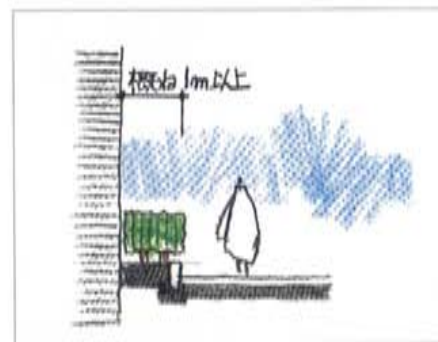


建物の壁面の威圧感をやわらげるためのもので、樹木のもつイメージが重要である。植栽スペースは概ね2m以上が望まれる。



中央区

L-3スペースと植栽(かん木)



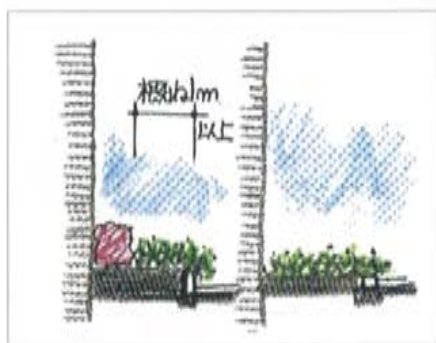
かん木は、刈込み、伸び切り、花、紅葉等、演出効果が高く、狭いスペースの演出には有効である。



中之島

L-4スペースと植栽(地被)

地被は、その特性から構造物を軟らかく見せる効果が高い。特に足元では広がりを感じさせる。



OBP



サンフランシスコ

L-5スペースと植栽(生垣)

生垣は、狭いスペースを立体的に使うのに有効で、単なる遮蔽だけでなく、壁をやわらかく見せる効果がある。



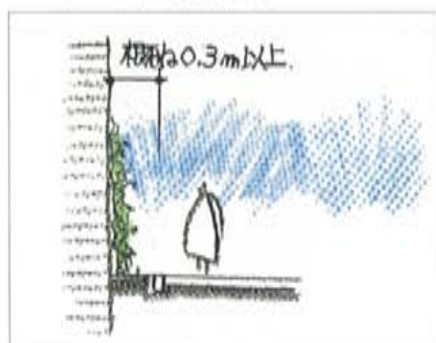
西区



西区

L-6スペースと植栽 (つる性植物等)

つる性植物は植栽スペースが狭くても立体的な緑を演出できる。
エスパリエ*は花物を用いると空間を暖かくする効果がある。



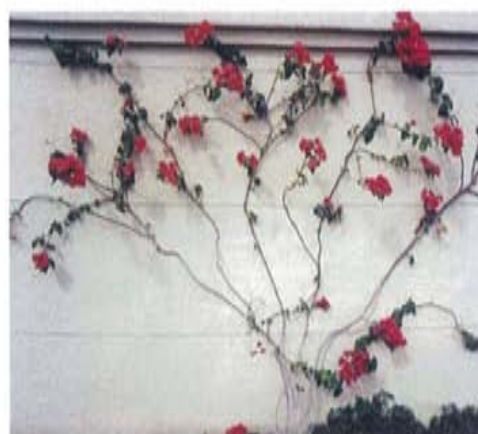
エスパリエ*
壁面にやわらかいアクセントをつけるためトレリスや針金を用いてかん木やつる性植物を誘導してデザインする手法。



中央区

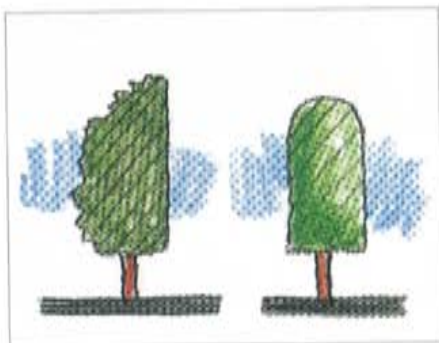


トレド



サンフランシスコ

L-7整形樹形



まちをデザインするとき、自然樹形だけでなく、整形された樹形も有効である。



ヘルシンキ



ボストン

L-8人工地盤上の植栽



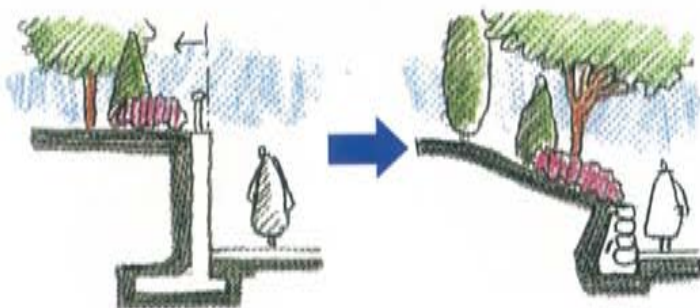
北区



北区

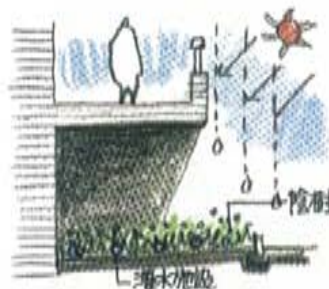
L-9道路空間との親和性

境界部の植栽は、擁壁と一体となって外部の人々を拒絶してしまわないよう、親和性が必要である。



L-10生育環境と樹木特性

光条件に対する樹木特性を充分踏まえて植栽することが、植栽設計において必要である。



舗装

基本的な考え方

①デザインへの配慮

オープンスペースの中でデザイン要素として舗装の占める割合が大きいことから、舗装のデザインへの配慮が必要である。

②連続性

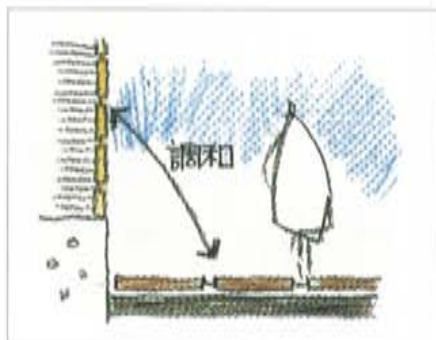
舗装のデザインは、建物のデザインとの調和のほか、接続する道路の舗装との連続性にも配慮する。

③楽しいデザイン

施設の利用目的によっては、人々を楽しみさせるデザインも有効である。

デザインメニュー

M-1建物のデザインとの調和



舗装は、空間の雰囲気を出し出す大きなウェイトを占めることから、建築デザインとの調和が必要である。

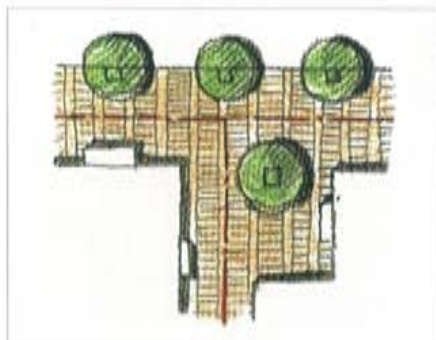


舞州アリーナ



天保山

M-2舗装の連続性



素材やパターンをあわせることで、隣地や前面道路舗装との調和を図る。

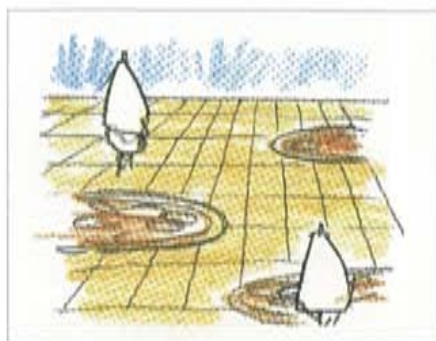


科学館



中央区

M-3楽しい舗装



舗装にアートすることで楽しい空間となる。



バルセロナ



枚方市

屋外造形物

基本的な考え方

①設置の必要性

設置の必要性を充分検討する必要がある。

②デザインと配置

設置目的に対応した形態、配置とする必要がある。

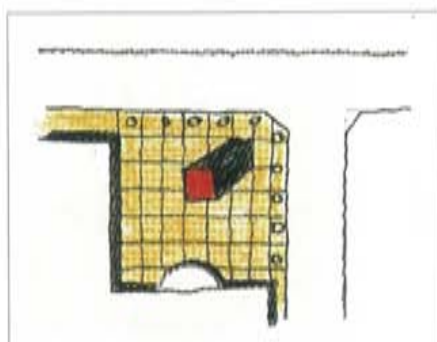
設置目的としては次のようなものが考えられる。

- シンボルとして用いるもの
- モニュメントとして用いるもの
- 空間を楽しくするためのもの

デザインメニュー

N-1シンボル化

広場の中心施設としてシンボル性の高いものを導入する。



総合医療センター



クレオ大阪北

N-2ファニチュア化

ベンチやサインの機能をもたせたり、それらと一体化することにより、身近なものとする。



城東区



大阪プール

N-3楽しい造形物

動く造形物や彫刻などを導入することで、空間を楽しいものとする。



天保山



鞠公園

ストリートファニチュア

基本的な考え方

①サイン等

サインは、市民が施設を利用するのに必要で十分な情報を精査した上で、後から付加されることのないようその内容や設置場所を決定する。

サインのデザインは、外部空間のイメージにふさわしいものとし、設置にあたっては、個々バラバラに設けることなく、できるだけサインの統合化や他の工作物との複合化を図る。

②照明

屋外照明は、周辺土地利用に対応して光の広がりや配慮する。

メインエントランス広場の床面照度は概ね1ルックス以上が望ましい。

③車止・ベンチ等

場所性を考慮して設置する。

デザインメニュー

O-1複合化



サインをはじめとする複数のデザイン要素の複合化は、オープンスペースをすっきりとさせる。



長居船技場



天保山

O-2デザインの調和と個性化



ATC

建物との調和を図りながら、個性的なデザインとすることで楽しさを演出する。



ATC

O-3サイン



計画的な配置と建物や空間特性に調和したデザインとする。



ATC



初庭球場

O-4 広報板の統合

広報板の設置位置に留意し、雑多になりがちなデザインを統一し、統合する。



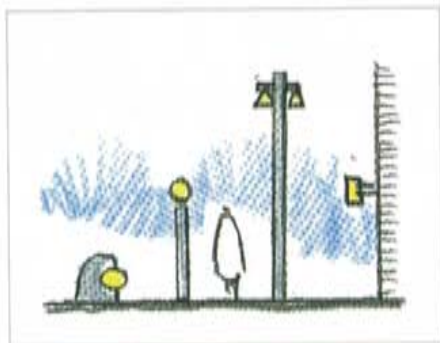
市役所



南港

O-5 照明

照明は単に機能だけでなく、空間デザインの重要な要素として、景観や周辺の雰囲気配慮する。



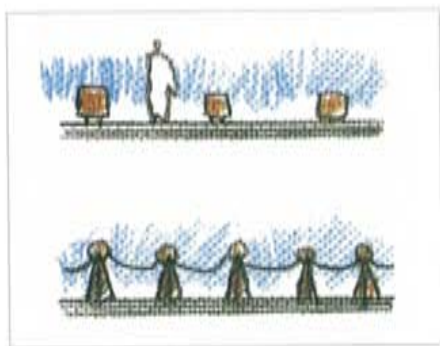
南港



ATC

O-6 車止

機能を重視したものと、雰囲気演出を重視したものがあり、場所性を踏まえて設置する。



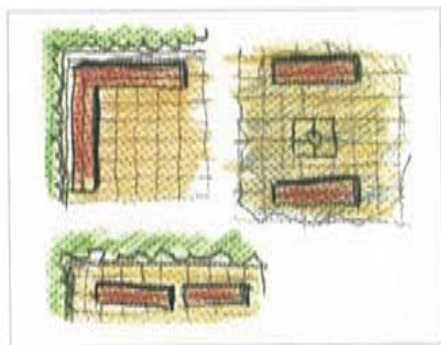
東成区



ストックホルム

O-7 ベンチ

空間の雰囲気配慮して、デザインや材質・配置を決める。



北区



城東区

P

IV.さまざまなデザイン要素(5)

水

基本的な考え方

水はあまり大きなスペースを必要としないデザイン要素として、まちの雰囲気にも潤いを与えるため積極的に取り入れる。
建物の目的によっては、空間を楽しくさせる装置として持ち込むことを考慮する。

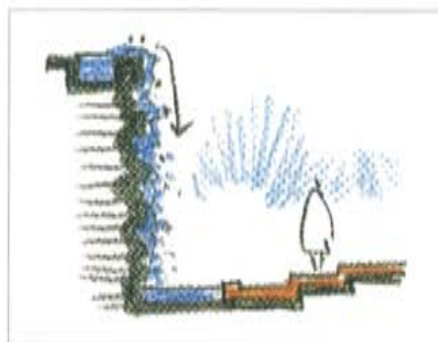


咲くやこの花館

デザインメニュー

P-1 動きのある水

動きのある水は、ダイナミックな空間演出効果をもつ。



ニューヨーク



ニューヨーク

P-2 モニュメント化

モニュメントと一体となった水は、全体が造形物としての効果をもつ。



ニューヨーク



ハーバード

P-3 楽しい水

空間を楽しい雰囲気にする。



コムズガーデン



横浜市

Q

IV.さまざまなデザイン要素(6)

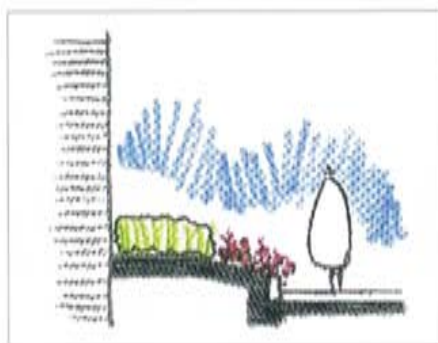
花

基本的な考え方

オープンスペースに華やかさや、彩りを添える重要なデザイン要素である。先導的にまちに花を持ち込むのは公共施設の役割の一つであり、植栽スペースがなくてもプランター等いろいろな持ち込み方があり、その場所にふさわしい形態で積極的に導入することが望ましい。

デザインメニュー

Q-1花壇



色とりどりの花を植えることで華やかで季節感にあふれ、親しみのある景観を生む。

トロント

Q-2プランター



旭区役所



サンフランシスコ

接道部あるいは玄関部に植栽スペースのない場合のアクセントとして用いる。

Q-3ハンギング・窓辺



ダイヤモンドモール



中央区

ポールや壁面にプランターをとりつけアクセントとしたり、窓辺に花を持ち込み、楽しさを演出する。



公共建築の外部空間デザインマニュアル

■編集・発行

平成8年6月

大阪市都市整備局

〒530 大阪市北区中之島1-3-20